

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091800138
法人名	有限会社 ケアサービス九州
事業所名	グループホーム ふぁみりー伊川
所在地	福岡県飯塚市伊川字原ノ前1番1
自己評価作成日	平成24年1月10日

事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。

基本情報リンク先	http://kohyo.fkk.jp/kaigosip/Top.do
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	株式会社 アーバン・マトリックス 評価事業部		
所在地	福岡県北九州市小倉北区紺屋町4-6 北九州ビル8階		
訪問調査日	平成24年2月2日	評価結果確定日	平成24年3月30日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

基本理念でもある、「人としての尊厳と心のふれ合いを大切に」をもとに支援を行っている。集団ではなく個別ケアを重視している。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

その方にとってのこれまでの習慣やこだわり、楽しみごと等のライフスタイルの継続や、故郷訪問や思い出の場所等、心の充足感を得るための目的を持った外出を計画し、思いや希望の実現に向けて個別支援が行われている。また、理念の中心とする「人としての尊厳と心のふれ合いを大切に」の実践に向けて、記録様式の工夫や内容の充実、視点の明確化に取り組み、職員や家族との共有を図りながら日々のケアに結び付け、入居者、家族の安心や信頼を得るために日々取り組んでいる。開設して5年目を迎える中、終末期への対応については、入居者、家族の意向に寄り添うために、これまでに医療機関や訪問看護事業所との連携体制作りや、職員の意識や知識の向上に取り組み、今年度は、開設以来初めての看取りケアが行われている。今後も、入居者の心情に寄り添いながら、地域との交流や連携を積み重ね、福祉拠点としての活動展開が大いに期待される事業所である。

・サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) 項目 1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 該当するものに印	項目	取り組みの成果 該当するものに印
58	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	65	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)
59	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,40)	66	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)
60	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	67	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)
61	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	68	職員は、活き活きと働けている (参考項目:11,12)
62	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	69	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う
63	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:32,33)	70	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う
64	利用者は、その時々状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)		

自己評価および外部評価結果

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
理念に基づく運営					
1	(1)	理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	基本理念及び運営方針はミーティングにて唱和している。理念に基づき支援を行っている。	介護記録には、「ケア方針、基本理念に基づいてどのように関わったか」を記載する項目も設けられる等、理念の共有や実践を重要視している。また、サービス提供への誠実な姿勢や、質の向上に向けた様々な取り組みから、理念の共有と実践をうかがうことが出来る。	
2	(2)	事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自身が地域の一人として日常的に交流している	伊川祭りや、餅つき大会への参加あり。3ヶ月に1度の伊川便りは、回覧板にて案内している。また、地域の幼稚園児との交流を年2回行っている。	自治会に加入している。定期発行される事業所便りは回覧板に掲載され、活動報告や行事案内を行っている。ホームの夏祭り「伊川祭り」や餅つき大会には、家族、地域住民の参加を得ている。地域からは地区運動会の案内もあり、入居者の方々と共に参加している。中学生の職場体験を受け入れている。	
3		事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	こども110番の家の指定を受けており、気軽に立ち寄れる場所としている。認知症サポーター養成講座を地域の方を招いて公民館にて開催した。		
4	(3)	運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	自治会代表、入居者ご家族、地域包括支援センター職員にご参加頂き、近況報告や事業所の取り組みについて報告し、ご意見やご質問を受け、よりよいサービスが提供できるよう努めている。	2ヶ月に1回、定期的開催されてる。家族には面会時に案内し、参加率も高い。状況報告や研修報告等を行い、出された意見や情報提供を全体で検討し、運営に反映させて行っている。	
5	(4)	市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議への参加や、利用者様のサービスについての相談を行っている。	運営推進会議には、地域包括支援センター職員の参加を得ている。また、認知症サポーター養成講座開催時には講師役も務める等、行政との連携を図っている。福祉相談員を受け入れている。	
6	(5)	身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束排除についてマニュアルに沿って勉強会を行っている。開設より、玄関や裏口の施錠は基本的には行っていない。	日中は玄関の施錠は行わず、さりげない見守り、寄り添うことを大切にしている。玄関以外の2箇所のは出入り口はセンサー対応し、安全面への配慮を行っている。言葉かけや対応も含め、勉強会等において身体拘束への共有認識を図りながら、理解を深め、行動や感情を抑制しないケアに取り組んでいる。	
7		虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	高齢者虐待防止法関連についての勉強会を行っており、全員に周知徹底している。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	後見制度のパンフレットや資料により、個別に学習し知識をつけている。現在は制度を利用する入居者が居られないが、懇談会でお伝えさせて頂いたことがある。	現在、日常生活自立支援事業や成年後見制度を活用している方はいないが、外部研修資料をもとに、ミーティングで報告し伝達研修を行っている。パンフレットは閲覧可能となっており、家族に向けた情報発信を行った実績もある。	
9		契約に関する説明と納得 契約の締結、解約また改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居契約時に必ず行うようにしている。		
10	(7)	運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時や運営推進会議、家族懇談会での意見や要望は議事録にて皆で共有し、ケアプランに反映させている。	運営推進会議への家族の参加が多く、意見や要望を伺う機会としても活用している。日常の中で出された意見も含め、職員間で検討しながら、介護計画や運営への反映に努めている。24年度は、家族との食事会開催を計画している。	
11	(8)	運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ミーティングや申し送りノートで意見や要望を聞くと共に、年2回個人面談にて個別に話す機会を設けている。	運営者も参加の上、1ヶ月に1回ミーティングを行っており、職員の意見や要望を収集し、協議を行っている。実際に、シャワーキャリーの購入等、業務に反映されている。	
12		就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境条件の整備に努めている	管理者は、人事考課や目標及び目標達成度、各人の努力や実績は運営者に報告し、ベースアップの基準としている。		
13	(9)	人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また事業所で働く職員についても、その能力を發揮して生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保証されるよう配慮している	ハローワークで求人募集を行っている。面接の際は運営者が「介護に対する思い」を必ず尋ねるようにしており、出勤初日より、新人研修カリキュラムに沿ってオリエンテーションを行っている。産休・育休からの復帰の実績もある。	ヘルパー2級以上という資格要件はあるが、性別や年齢を理由とする採用対象からの排除は行っていない。働きやすい職場環境作りに取り組み、産休や育休の取得や職場復帰に向けた配慮が行われている。	
14	(10)	人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	ミーティングで身体拘束や高齢者虐待防止法関連についての勉強会を行っている。	外部研修参加時には、ミーティング後の勉強会にて伝達研修を行っている。また、倫理及び法令遵守、高齢者虐待防止、プライバシー、認知症ケア等を研修計画の中に位置付け、人権尊重への意識を高めている。	

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	段階に応じて法人外での研修に参加させると共に、年2回自己研鑽の為に研修の自主参加の機会を設けている。		
16		同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	事業所間での交換研修を行っている。またG・H協議会への参加により、相互の悩み活動などを話し、人事交流を図ることで、質の向上に努めている。		
安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
17		初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居見学や入居相談は随時行っており、ご家族やご本人が安心して満足に生活できるよう努めており、入居後は、会話の中で細かい表情やしぐさを見逃さずご本人の真意を探り想いをくみ取りながら信頼関係が築けるように努めている。		
18		初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	ご家族様の困りごとや不安なことは十分に聞き取りを行っている。ご本人の要望とご家族の想いは違う点を理解したうえで、何でも相談できる事業所となるように、ご家族様の立場に立って話を伺うようにしている。		
19		初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談を受けた時点のご本人の精神的、身体的状態を観察し、ご家族の気持ちも十分に考慮しながら事業所として、出来ること出来ない事の説明を行い適切な対応を行っている。		
20		本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	家庭に近い環境の中で生きがいを持てるようにしている。炊事や掃除を共に行い、畑の手入れから収穫まで行う方もいる。		
21		本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	ご本人にとって家族の絆が一番だと考える。ご家族に無理のないように一緒に支えていけるようにご協力いただいている。		
22	(11)	馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	入居前よりの行きつけの理髪店を利用されている。馴染みの場所や人を大切に考え可能な限り途切れない支援を行っている。	馴染みの理美容は家族や職員が同行し、関係性が途切れない支援を行っている。また、以前利用していたデイサービスを訪ねたり、こだわりの嗜好品を定期的に買いに行く等、馴染みの関係継続に向けた個別支援を行っている。	

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
23		利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せず利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	一緒に生活している者同士、関わり合えるよう職員が間に入ることで、孤立しないようにしている。誕生会では、皆でケーキを食べお祝いをし関わりを大切にしている。		
24		関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	退去された方のご家族様へお便りを出し、ご縁というものを大切に考えている。その際にご相談があれば受け付けている。		
その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
25	(12)	思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の会話や表情、行動により希望があれば個人記録に残し、叶えるように皆で意見交換、検討している。困難な方はご家族からの聞き取りや、本人本位で考えている。	一人ひとりの方にとっての暮らし方の希望や意向については、日々の関わりの中から情報収集を行い、センター方式への記載や個人記録に残すことで、職員間で共有、検討を行っている。	
26		これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	入居時にご本人と家族に詳しく生活歴を伺い、性格や人柄についても情報を集め、把握に努めている。		
27		暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居当初は生活の仕方に大きな変動がないように、出来ること出来ない事、好きな事など聞き取りを行い介護記録に残して情報の共有をし、ケアカンファ時にも意見交換を行っている。		
28	(13)	チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月1回のミーティングにおいて個別のケアカンファを行い課題シートに基づき検討を行っている。ご本人、ご家族の要望も含めたプランを目指している。	本人、家族の意向を踏まえ、センター方式による情報収集や心情の様子を大切に捉えた介護記録への記載、個別カンファレンス等を通じて、情報共有や協議を行い、介護計画への反映に努めている。	
29		個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の言葉、表情、しぐさを重視した記録様式にて日々の様子、ケアの実践、職員の思いを共有している。特に大事な情報や職員の気づきは連絡ノートに伝達を行い実践やプランの見直しに努めている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
30		一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	本人や家族の希望にて訪問マッサージを取り入れたり、訪問診療以外の受診の付添、遠方の家族に代わり入院時の付添看護など行っている。		
31		地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	ご自宅やご家族との関係を切らない支援を目指し、定期的なご自宅への外出や、大好きなオムライスを食べショッピングに出かける事を毎月の楽しみにしていただいている方もおられる。		
32	(14)	かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	利用者の希望するかかりつけ医に受診し、嘱託医の週1回の往診や、病変時は連絡にて指示受けを行っている。	入居時に、希望するかかりつけ医を確認している。また、協力医による週1回の往診や訪問看護師との連携を、日々の健康管理や早期対応につなげている。受診前後の、家族との情報共有に努めている。	
33		看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎週月曜日に訪問看護による健康チェックが行われ、報告、相談し24時間連絡できる体制となっている。		
34		入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院先を訪れご家族様の了解のもと主治医や看護師より情報の収集を行っている。ご家族様とも密に連絡をとり、意向や要望も聞きながら早期に退院できるように支援している。		
35	(15)	重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所のできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重度化の指針についての説明を行い、アンケートにて延命の希望も伺っている。重度化、終末期に入った方に対しては主治医の見解のもとその都度状態に応じたの懇談会を行っている。	入居時に、重度化した場合や終末期のあり方について、指針をもとにホームとしての方針を説明し、意向確認及び方針の共有を図っている。状態の変化に伴い、その都度、意向確認が行われ、事前指定書の見直しが行われている。詳細かつ具体的に示されたその内容から、当事業所の運営方針がうかがえる。昨年、家族や主治医、訪問看護事業所との連携を図りながら、看取りを経験している。	
36		急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変時の事故発生マニュアルに沿って勉強会を行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
37	(16)	災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年2回避難訓練を行っている。現時点では地域との協力体制は築けていない。	年2回、夜間を想定した避難訓練を行っている。実施時には自治会長には報告しているが、地域からの参加は実現していない。飲料水や非常食等の備蓄品が用意されている。	地域への働きかけが行われており、日常の中で関係性を深めながら、災害時の相互の連携や協力について、運営推進会議等において、協議を重ねていくことを期待します。
その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
38	(17)	一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	プライバシー保護の勉強会を行い周知している。基本理念に沿ったケアの実践を常に心がけている。	研修計画の中に位置付け、職員が共有認識を持てるよう継続して取り組んでいる。排泄ケアは特に留意し、プライドや羞恥心への配慮を心がけている。個人の尊重や個別性を重視し、その人らしさの理解に努めながら、理念や方針の実践に取り組んでいる。	
39		利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員は自分の考えを押し付けない様、入居者が自己決定できる環境作りを心がけており、言葉をゆっくり傾聴するようにしている。		
40		日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	概ねの日課はあるが、個人のペースを大切に、希望に合わせて柔軟に対応している。		
41		身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	着る服はご自身で選んで頂き、いつまでも身だしなみを忘れないよう支援を行っている。		
42	(18)	食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	嗜好アンケートの実施でメニューに取り入れ、嫌いなものは別の物を提供している。入居者と共に台所で過ごす時間を大事に考えている。	個別の嗜好や形状、習慣にも配慮しながら、主食の選択や食材の工夫、半調理品の利用等、細やかな配慮が行われている。誕生日は、個別に外出に出かけることもあり、楽しい行事となっている。	
43		栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事摂取量や水分摂取量はチェック表にて把握している。食事形態は個別に異なっており、嗜好・習慣により主食の変更も行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
44		口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないように、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔ケアを実施し、舌ブラシやガーゼを用いての清潔保持に努めている。地域の歯科医への受診や歯科往診にて指導も受けている。		
45	(19)	排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄パターンの把握により、日中はトイレにて排泄できる支援を行っている。尿意・便意のサインを皆で共有し見逃さないように努めている。	排泄状況や間隔、パターンの把握に努めながら、プライドや羞恥心への配慮を心がけ、さりげないトイレ誘導を行っている。また、排泄とBPSDとの関連性についても重要視し、適切なケアと環境作りに努めている。	
46		便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	服薬だけに頼らず、水分量、体操、散歩、飲食物の工夫など快便に繋げる取り組みを行っている。また、個人で購入されたヨーグルトを毎朝召し上がる方もおられる。		
47	(20)	入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	時間帯は決まっているが、それ以外でも希望があれば入浴できる体制にしている。お風呂がお好きでない方には浴槽に足を入れ暖めることで喜んでいただき、そのまま入浴されるような支援に繋げている。	毎日、入浴準備を行い、個々にそった支援を行っている。季節や天気により、拒否される方もあるが、タイミングや声かけを工夫し、2日に1回は入浴してもらうよう支援している。入浴剤等で香りを楽しみ、楽しく入る支援を行っている。	
48		安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	日中は一人ひとりに合わせ適度に休息を設けるようにしており、加湿器や空気清浄機を利用されている方もおられる。夜間は日中の活動と音や光、室温など環境を整え個別に安眠に繋がる支援を行っている。		
49		服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方箋を個別に管理し、用法用量を理解し、服薬ミスのないように3重のチェックを行っている。症状の変化は常に観察し、主治医に連絡・報告を行っている。		
50		役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	生活歴や能力などを考慮しながら、料理、掃除、畑や剪定など充実した生活が送れるよう一人ひとりに合わせた支援を行っている。		

福岡県 グループホーム ふぁみりー伊川

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
51	(21)	日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	個別、少人数での外出支援を行っている。故郷への訪問計画もご家族と共に行っているし、家族旅行で故郷へ1泊される方もおられる。	天候や希望にあわせて、ホームの庭や周辺の散歩に日常的に出かけている。一人ひとりの希望を聞きながら、車で近くのドラッグストア等出かけ、好きな物を買う事もある。二瀬地区の運動会にも参加し、交流を深めている。家族の協力も得ながら、故郷訪問等、個別の外出を支援している。	
52		お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	預かっているお金とは別に、ご自身で所持しておられ、外出時には支払いをされている。		
53		電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	希望があれば電話を取り次ぎ、直接お話していただくことも出来る。大切な親類や知人からの手紙も届くなど途切れない関係の支援に努めている。		
54	(22)	居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	共有の空間は清潔にし温度、湿度の管理を行っている。ソファを何箇所か設置することで、何処でも誰とでも座ってくつろぎ話せる空間をもうけている。	高い天井には梁が現れ、奥行きのある共用空間から庭までと続く、開放的な空間となっている。ソファや椅子が各所に配置され、それぞれ好きな時間が過ごせる場所が確保されている。	
55		共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	居間でのテレビのコーナーとは別に、ソファを設けており、一人でビデオを觀賞されたり、気の合う方と会話されたりと思い思いに過ごされている。		
56	(23)	居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	ベッド以外の家具や寝具は使い慣れたもの馴染みの物を使用されているし、テーブルと椅子を置かれ読書を楽しまれている方、冷蔵庫を置かれ買い物した飲み物を居室で飲まれくつろがれる方など一人の時間も楽しまれている。	広い窓ガラスでどの居室も明るい。その方にとっての馴染みの物が持ち込まれ、居心地良く過ごせるよう配慮している。冷蔵庫を持ち込まれている利用者もあり、好みの飲み物を買に行くことも楽しみとなっている。	
57		一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	ホール内はバリアフリーで手すりの設置により安全な環境づくりを行う。食事は気の合う方同士の決まった席になっており、各居室には名札をかけ、お一人お一人の自立した生活を目指す。		